

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着は終了しました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは12月21日に奥内沖で1.7個体/m³、久栗坂沖で2.8個体/m³、野辺地沖で0.8個体/m³、1月5日に奥内沖で0.8個体/m³、1月6日に久栗坂沖で5.0個体/m³、川内沖で1.6個体/m³、1月11日に久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは12月21日に奥内沖で2.5個体/m³、久栗坂沖で25.0個体/m³、野辺地沖で3.1個体/m³、1月5日に奥内沖で0.8個体/m³、1月6日に久栗坂沖で5.0個体/m³、川内沖で1.6個体/m³見られました(表1、図3)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは12月21日に奥内沖で60.0個体/m³、久栗坂沖で48.3個体/m³、野辺地沖で147.7個体/m³、1月5日に奥内沖で4.2個体/m³、1月6日に久栗坂沖で137.2個体/m³、野辺地沖で191.4個体/m³、川内沖で390.0個体/m³、1月11日に久栗坂沖で91.1個体/m³見られました(表1、図4)。

(4) ミネフジツボ

ラーバは見られていません(表1)。

(5) その他

キヌマトイガイのラーバは1月6日に久栗坂沖で0.6個体/m³、野辺地沖で17.2個体/m³、川内沖で133.6個体/m³、アミクサの小枝は12月21日に奥内沖で5.0個/m³、久栗坂沖で4.4個/m³、野辺地沖で24.2個/m³、1月6日に久栗坂沖で3.3個/m³、野辺地沖で27.3個/m³見られましたが、オベリア類のクラゲは見られていません(表1)。

※今後の見込みは裏面にあります

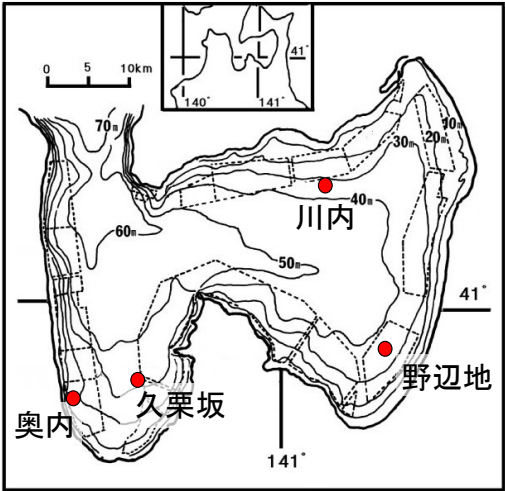


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ	オベリア類	アミクサ
				ラーバ	卵				クラゲ	小枝
奥内沖	R3.12.21	1.7	0.0	2.5	1.7	0.0	60.0	0.0	0.0	5.0
	R4.1.5	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖※	R3.12.21	2.8	0.0	25.0	1.1	0.0	48.3	0.0	0.0	4.4
	R4.1.6	5.0	2.2	5.0	0.6	0.6	137.2	0.0	0.0	3.3
	R4.1.11	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	91.1	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R3.12.21	0.8	0.0	3.1	1.6	0.0	147.7	0.0	0.0	24.2
	R4.1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17.2	191.4	0.0	0.0	27.3
川内沖※	R4.1.6	1.6	0.8	1.6	0.0	133.6	390.0	0.0	0.0	0.0

※の久栗坂・川内沖は実験漁場内

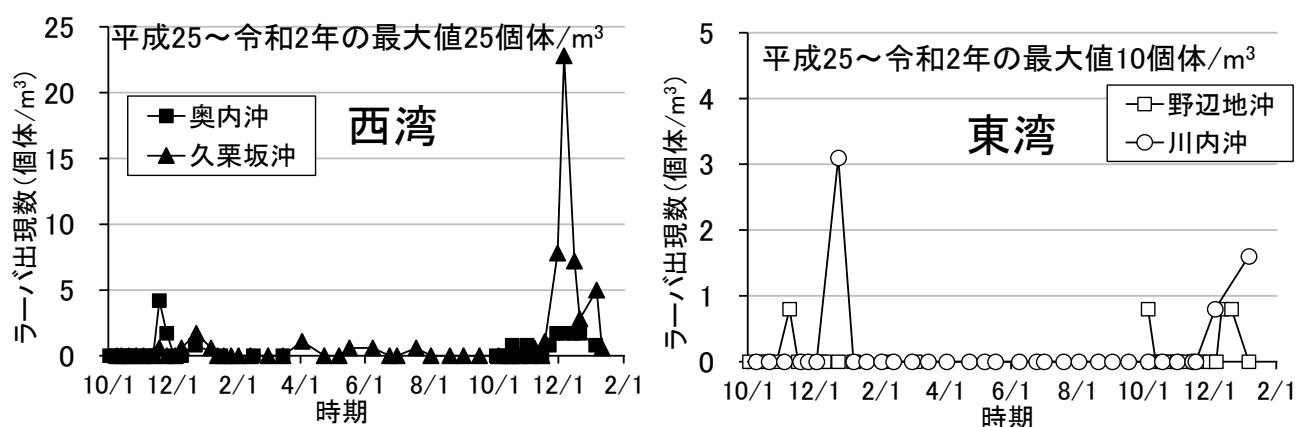


図2 ヲレイボヤ ラーバ 出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

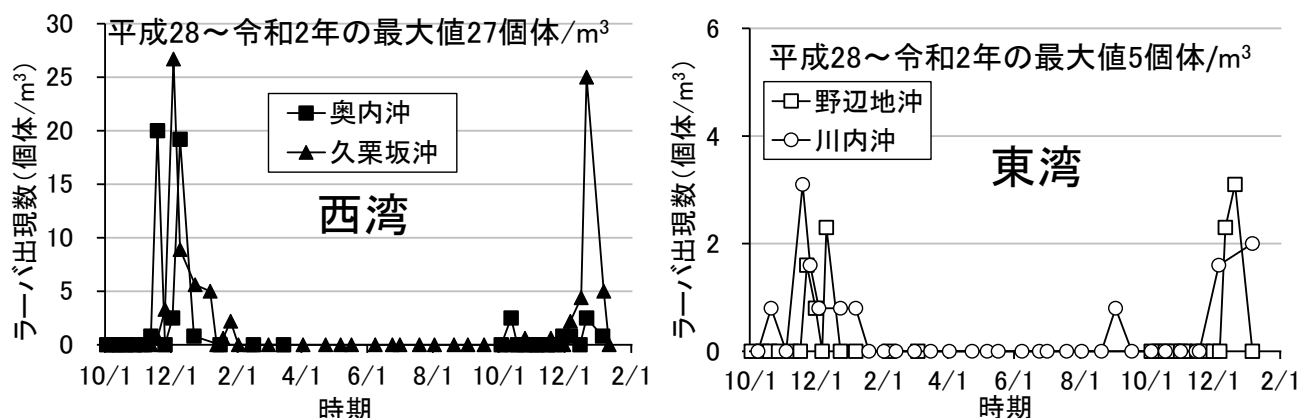


図3 マベ ヲレイボヤ 出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

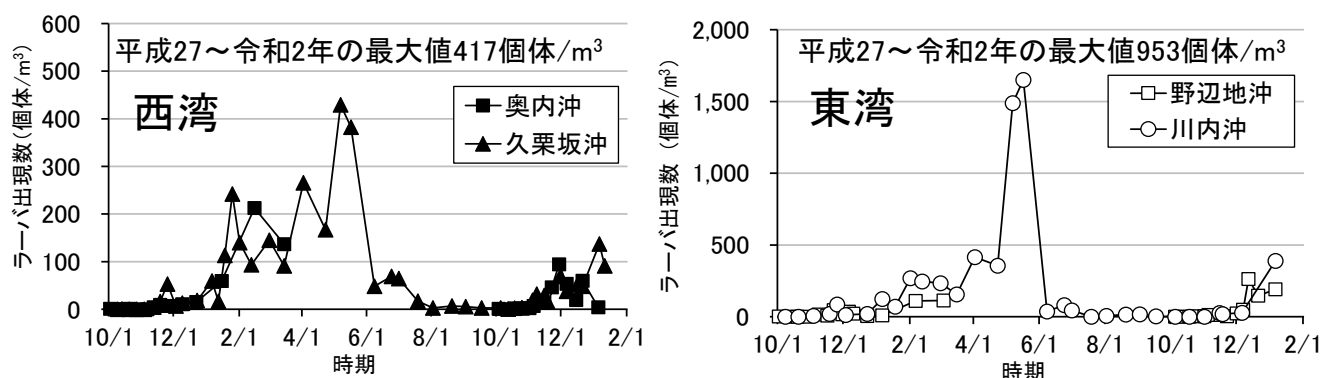


図4 ヲラサキガイ ラーバ 出現数の推移（令和2年10月～令和4年1月）

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層水温は4～10℃台です。

ユレイボヤのラーバは8℃未満の水温では出現しないことが分かっているので、出現のピークは過ぎたものと考えられます。

今季の久栗坂沖の累積ラーバ数が47.9個体/m³と非常に多くなっており、分散済みのパールネットにユレイボヤの付着が見られています。来春出荷時に大量付着している可能性があります。

マボヤのラーバは9℃以下になると活性が低下し、泳げなくなることが分かっています。水温が低下してきたので、付着は終了したと思われます。

ムラサキガイのラーバが増加していますが、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

ミネフジツボのラーバ出現のピークは、例年1月下旬から2月となっています。

キヌマトイガイのラーバとアミクサの小枝が見られましたが、これから春にかけて本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

